

月刊

2019

3  
月号

# みんぱく



## 特集

# 時代を映す おもちゃ

玩具を見透かす眼差しの彼方 笹原亮二  
「おもちゃ」から見る子ども像 是澤博昭  
女兒と紙製着せ替え人形 森下みさ子  
戦後日本とおもちゃの変遷 日高真吾



# ゲームの規則

わかしま ただし  
若島 正

プロフィール  
1952年京都府生まれ。京都大学名誉教授。専門は英米文学、ウラジミール・ナボコフ研究。2003年に著書『乱視読者の英米短篇講義』（研究社）で読売文学賞受賞（随筆・紀行部門）。翻訳書にウラジミール・ナボコフ著『ロリータ』（新潮社）など。将棋作家およびチェス・プロブレム作家として多数の作品を発表。将棋作品集に『盤上のファンタジア』（河出書房新社）などがある。

わたしの手元に、*The Games We Played: The Golden Age of Board & Table Games* という本がある。これは副題にあるように、ボードゲームやテーブルゲームの「黄金時代」であった一九世紀後半に、アメリカの一般大衆が遊んだゲームの数々を、あざやかな色彩図版で再現し、それにニューヨーク歴史協会の現副会長であるマーガレット・K・ホフナーが解説文を付けた大型本である。この本を眺めていると、その黄金時代から一〇〇年以上が経過して、テレビゲームやPCゲームの時代になった現在、どれほどゲームが進化したかを如実に感じさせられると同時に、わたしにとってゲームの「黄金時代」であった子供の頃を否応なしに思い出させられる。

昭和三十年代のことである。家の近くの繁華街にあつたおもちゃ屋は、わたしにとってパラダイスであり、何か事あるたびに、ご褒美としていろんなゲームを買ってもらつた。買ってもらうだけでなく、モノポリーのようなボードゲームは遊び方だけ憶えて、ボール紙で作つたりもした。どんなゲームにも、必ずルールがある。逆に、ルールを決めれば、それで新しいゲームができる。友達と一緒

に遊んでいるうちに、ルールをこう変えればもつとおもしろくなる、ということがわかると、そういう「ローカルルール」で遊んだ。自作のボードゲームだと、そういう変形は簡単だ。ビー玉でもメンコでもトランプでもなんでもいい。子供の頃にそうした遊びをしたことがあれば、それはきつとローカルルールに基づいていたはずだ。

つまり、ゲームの規則は絶対ではない。それは遊ぶ人間がいくらでも変えられるものだ。しかし、逆に考えれば、長い歴史のあいだに現在の形になつて、今でも大勢の人間が遊んでいる囲碁、将棋、チェスといったゲームは、幾多のローカルルールが淘汰された末の、叡智の結晶である。たとえば、将棋に「打歩詰禁止」という奇妙なルールがあり、これは将棋の本質的な部分にほとんど関係しない。しかし、わたしが関心を持っている、詰将棋という将棋パズルにおいては、そのルールが詰将棋独自の世界を作り出すのに大きく貢献している。いったい誰が何を考えてそういう奇妙なルールを付け加えたのか。そんな不思議の念に打たれるときに、わたしは将棋というゲームの底知れない深さを実感するのである。

月刊  
みんなぱく

3月号目次

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 エッセイ 千字文<br/>ゲームの規則<br/>若島 正</p> <p>2 玩具を見透かす眼差しの彼方<br/>——特別展「子ども／おもちゃの博覧会」から<br/>笹原 亮二</p> <p>4 「おもちゃ」から見る子ども像<br/>是澤 博昭</p> <p>6 女兒と紙製着せ替え人形<br/>森下 みさ子</p> <p>8 戦後日本とおもちゃの変遷<br/>日高 真吾</p> <p>10 ○○してみました世界のフィールド<br/>庶民の足、ダラダラ<br/>鈴木 英明</p> | <p>12 みんなぱく Information</p> <p>14 想像界の生物相<br/>ティンガティンガの妖怪<br/>和田 正平</p> <p>16 新世紀ミュージアム<br/>明日の博物館<br/>鈴木 紀</p> <p>18 シネ倶楽部 M<br/>歌を発見し、収集した音楽学者<br/>——「歌追い人」<br/>福岡 正太</p> <p>20 ながなんちゃ<br/>ベンガルのラスグッター<br/>田中 鉄也</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|---|--|

# 特集 時代を映す おもちゃ

## 玩具を見透かす眼差しの彼方 — 特別展「子ども／おもちゃの博覧会」から

笹原亮二 民博学術資源研究開発センター

江戸時代から昭和にかけての玩具、約五万点を集めた本館の多田コレクション(時代玩具コレクション)。おもちゃは時代を映し出す。特別展で展示される約一三〇〇点の厳選されたおもちゃの数々から、当時の社会や子どもの姿に思いをはせてほしい。

特別展  
子ども／おもちゃの博覧会  
会期 三月二日(木・祝)  
— 五月二八日(火)  
場所 特別展示館

### 我々を惑わすイメージ

むかしの玩具を目にすると、それが自ら実際に遊んだ玩具と同じでなくても、子ども時分に玩具で遊んだことを思い出して懐かしいイメージを抱く人が多いのではないだろうか。しかし、むかしの玩具を改めて見てみると、懐かしいだけでは済まないことに気づく。例えば、明治時代、ボール紙の国産化で安価な紙メンコが大量に出回り大人気となったが、その絵柄は、明治政府があらたに定めた軍制や日清・日露戦争にちなんだ軍人や兵士が、江戸時代以来の武将と人気を二分した。ペーゴマは大正時代、鋳物業者が第一次世界大戦後の

不況の打開策で大量生産するようになって流行した。紙芝居は昭和初期、不況で増えた失業者が方々で子ども相手に演じるようになったのが流行の二因であった。太平洋戦争の敗戦後、米軍が進駐するとジープの玩具が流行し、MP(ミリタリー・ポリス)の玩具もあらわれた。また、アメリカとソ連の冷戦下で核実験が繰り返されると、メンコの絵柄に原爆や水爆が登場した。このように、玩具はそのときどきの社会の動向、即ち歴史と深くかかわっていた。その歴史には、子どもたちが玩具で遊んだ楽しい現実だけでなく、

軍国主義や不況や敗戦といった過酷な負の現実も存在した。それにもかかわらず、玩具を単に懐かしむだけにとどまるならば、その理解は皮相的で不十分なことを玩具の実態は示している。

### 教育のためのおもちゃ

玩具に注ぐ眼差しを惑わすイメージはほかにも存在する。例えば、玩具が単なるおもちゃ、他愛ない子どもの遊び道具に過ぎないというイメージである。実際に玩具で遊ぶのは子どもなのだから、玩具は他愛ないおもちゃであるという理解も一見不自然ではないように見える。しかし、「玩具を作ったり子どもに与えたりするのは大人たちである。大人たちはそのときどきの社会のなかで、さまざまな立場や思惑や必要性から玩具を作り、子どもに与えてきた。つまり、玩具は大人たちを介してそのときどきの社会と深くかかわってきたのである。



鉄カブト(おもちゃ)  
(昭和)

そうした玩具と社会のかかわりは玩具と教育をめぐっても見ることができ。明治初期、政府の視察官が欧米から教育的な玩具をもち帰ったり、ドイツで幼児教育を説いたフレーベルの思想に基づく幼稚園が開設されたりし

て、玩具は教育的であるべきとする考え方が次第に広まり、教育的な玩具が作られるようになった。明治時代から第一次世界大戦の敗戦までの教育は、天皇中心の国家観に立って忠孝や忠君愛国を説く教育勅語や軍国主義が重視され、そうした教育の方針は学校での教育にとどまらず、玩具にも影響を与えた。楠木正成らの南朝方の武将や赤穂義士などの忠君の士や、日清戦争以降の度重なる対外戦争で戦功を上げた軍人や兵士は、修身などの教科書に掲載されただけでなく、しばしばメンコなどの玩具になった。

実際は、「教育玩具」としるされたメンコのようにどこが教育的かわからない玩具も多く、政府の方針やフレーベルの思想が玩具の製造現場で十分に理解を得られたかは疑問である。また、子どもが玩具を選ぶ基準は遊んで面白いかながらであって教育的かながらではなかった。したがって、教育玩具の効果を顔面どおりに受け取ることはできない。しかし、昭和初期、鉄兜やガスマスクといった当時の新兵器の玩具を身に付けて戦争ごっこに熱中し、中国や米英を敵国として戦争を遂行する姿勢を心身に刻み込んでいった男の子たちのことを想起するだけでも、玩具が子どもにある種の教育的効果をおよぼしたことは明らかである。このことは、玩具が決して他愛ない子どもの遊び道具ではなかったことを示している。

今回の特別展「子ども／おもちゃの博覧会」では、明治時代から昭和四〇年代までを中心によくのむかしの玩具を展示する。そこでは是非、懐かしさ

や単なるおもちゃといったイメージに惑わされることなく玩具を見透かす眼差しを注いでほしい。そうした眼差しの彼方にこそ、子どもや社会や歴史をめぐる豊かな知見が姿をあらわしてくるはずである。



軍人丸メンコ(明治) \*本特集に掲載の玩具資料は、すべて民博蔵です。



義士アワセ(大正～昭和前期) 札を互いにやり取りして同じ義士の札をそろえる。多くそろえた人が勝ち

# 「おもちゃ」から見る子ども像

これぞつひろき  
是澤博昭 大妻女子大学准教授

## 変化する子ども像

子どもの生活をうかがい知ることができる記録は、公文書や法令などにはほとんどあらわれない。しかし商品化された玩具のなかにはその一端が垣間見ることがある。なぜなら玩具は大人の子どもの夢や希望、願いが、形となったものだからである。しかもそれは大人の一方的な思いではなく、子どもに支持されたものが基本的には商品化される。したがって日常生活意識や流行などを探る手がかりが玩具のなかに埋もれていることも多い。

しかし玩具の多くは遊ばれ捨てられる運命であり、そのほとんどは残っていない。そのため江戸時代から戦後にかけての玩具を中心とした五万点にもおよぶ子どもにかかわるモノが、網羅的に収集・保存された民博「時代玩具コレクション」は貴重である。

## 玩具の発信力

では玩具は、わたしたちに何を発信しているのであろう。愛され、育まれる子どもは、いつの時代にもいる。しかし大人や社会が理想とする「子ども像」は、時代とともに変化する。江戸時代後で有利な条件になることが、社会通念になりはじめたことがわかる。「遊び」と「教育」という本来矛盾する語からできた造語「教育玩具」を手がかりに、新しい教育観が社会や家庭に浸透していく様子を読み解くことができるのである。

## 新しい子ども像

近代的な学校制度の普及にともない、大人と子どもの境界が、年齢という尺度で画一化されることは、すでに指摘されている。これにともない社会や家庭で保護され、学校で教育される、大人へと成長し発達する、未熟で弱く、守られるべき子ども期があらわれる。これは戦後の高度経済成長期

期は、子どもを愛しむという思

いには満ちているが、今日わたしたちが抱く、乳幼児の人権やかけがえのない命という感覚は希薄であった。まして玩具や遊び環境を整えることで情操を育むという視点は無い。玩具は、達磨や鳩笛・犬張子など、厄除けや病除け、健やかな成長への願いなど、縁起物的な色彩が強し、その多くは手でもって遊び、やがて壊れてしまう、はかないものと考えられていた。

しかし明治に入り、幼児教育が日本に紹介されると、遊びに教育的な関心の目が向けられる。玩具は子どもの遊びに役に立つという視点から見直され、発育を促すという意味で命名された「教育玩具」が発売され流行する。その流行の過程と販売戦略・受容層の変遷などをたどっていくと、一九二〇年代には一部の富裕層や都市部の新中間層を中心に、幼児を

に含み、本格的に一般家庭にまで広く普及する子ども観である。

しかし少子高齢化や社会全体の高学歴化が進む現代、子どもが大切にされる一方で、大人になりきれない青年や大人の子どもの化が問題とされている。二〇一〇年には、施策によっては四〇歳未満が支援の対象になるという「子ども・若者育成支援推進法」が施行された。大人と子どもの境界が曖昧になり、「大きな子ども」が子どもと同じように保護を求め、弱者を主張するなど、社会全体が幼稚化している、という指摘もある。これまでわた



「風流おこな遊び」(複製版、原資料は江戸後期) 遊びに教育的意義を見出すことはなかった



おもちゃづくし(明治18年) 玩具には、子どもを楽しませるもの、健やかな成長を願うもの、という以上の意味はなかった



印刷ごっこの道具 「教育玩具 文明印刷遊」(明治) 1900年代、「教育」という商標が大流行する

したちが抱いてきた「子ども像」は、転換期を迎えつつあるのだ。

そこで近代に入り形成された子ども観の源流に立ち返り、大人は子どもをどのように見てきたのか、再検討する必要性に迫られている。近代化とともに変容する玩具の姿を丹念に精査することにより、新しい子ども像の出発点を探るヒントを見出すことができるかもしれない。

# 女兒と紙製着せ替え人形

もりた  
森下みさ子 白百合女子大学教授

## 紙製着せ替え人形の記憶

「紙製着せ替え人形」として試みるものの、これが正しい名称なのかどうか……。薄っぺらな紙を重ねるだけの着せ替え人形は、正式名称をもちえないほど文化的な価値も研究的な意味も問われることがないまま、収集も保存も積極的にはおこなわれてこなかった。しかし、遊び手であったかつての女兒に尋ねてみれば、世代を越えて多くの女性が人形の肩に服を掛ける動作とともに懐かしそうに想い起してくれる。ふろくや安価な値段で手に入れた紙人形に、付属の服の他に自分で描いた



西洋着せ替 (明治6年文部省製本所発行)

紙の服も加えて着せ替えを愉しんだ記憶は、女性たちの手に確かに刻まれている。その痕跡を残す「時代玩具コレクション」を見ていると、ひそかに、しかし連続と続いてきた紙人形と遊び手との対話に耳を澄ませてみたくなる。

## ごっこ遊びから憧れのファッションへ

「着せ替え」の名がしるされた紙人形の始まりは、西洋の服装を伝えるべく明治六年に文部省が作成した教育錦絵「西洋着せ替」である。夫人と子ども姿を切り抜いた紙人形に洋服を重ねて遊ぶものだが、千代紙の着物を着せて遊ぶ「姉様人形」以上に当時の女兒たちの関心を引くことはなかった。女兒たちが紙製着せ替え人形で遊び始めるのは明治二〇年代以降、しかも人形に紙の服を重ねて遊ぶものではなかった。一〇センチほどの紙人形には正面と後ろ姿が描かれており、糊で貼り合わせるときにあいだに綿を入れて厚みが出るように指示されたものもある。着物も前身と後身



「ねいさんのきせかえ」  
(明治31年松野米治郎発行、越米版)

がて憧れの対象は少女漫画の主人公にまで広がり、スラリとしたキャラクターたちがファッションモデルの役目を果たす。女兒たちの関心に応じるのかのように、このころになると正面だけの人形に紙の服の突起部分を折り曲げて重ねる着せ替え方に変わるのである。

## 和缺から型抜きへ

ところで、着せ替え遊びは紙から人形と服を切り抜くところから始まるのだが、切り抜き方法と遊び方は切っても切れない関係にある。前身と後身を貼り合わせる場合の細かい糊しろを切り取る



「モダンキセカエ」(大正～昭和) ©田河水泡/講談社

え願望にこたえたのは、あらかじめ切抜線が型押しされているものだろう。型抜きであれば間違っても切り落とすこともなく、きれいに切り取られた人形に服を重ねてファッションを楽しむことができる。女兒の願望を形にした型抜きの人形が、より適した対話の相手となるのである。

## 着せ替え人形と遊び手の対話

「人形を着せ替える」という遊びは、時代を越えて女兒たちの願望に深く根づくものであるらしい。が、それは「服」という日常的で現実的なものと「ファッション」という憧

れと夢を具現化するものとが重なる「場」でもある。だからこそ、時代の変化を映し出す小さな鏡にもなるのだろう。遊び手である女兒たちの手と、その時代が提供する紙人形との対話に耳を傾けるなら、着せ替え遊びに織り込まれた普遍的な願望と、時代に呼応するように浮上してくる願望の両方が聴こえてくるのではないだろうか。

を背中央で貼り合わせ、人形を挟むようにして着せ替えるのだ。女兒の手に収まる小ささやかすかな厚み、後ろ姿があることを考えると、女兒たちはこれを動かして「ごっこ遊び」をしていたのだろう。大正から昭和にかけては人形も洋装になり、ポットやカップ等の日用品も描き込まれ、これらを切り抜いて「お家ごっこ」を愉しんでいたことがうかがえる。ところが、昭和に入ってから「家族」を想わせる人形構成に変わって、女兒と若い女性が頻出するようになる。と同時に、宝塚歌劇団のスターや花形女優、人気子役等をモデルとした人形も登場している。日常の延長にある着せ替えよりも、非日常的な夢や憧れを形にしてくれる着せ替えに目を奪われるようになったのだろうか。や



右:「ママゴトキセカエ」  
女兒と若い女性  
上:「朝日のきせかえ」  
宝塚歌劇団のスター乙羽信子

# 戦後日本とおもちゃの変遷

ひだかしんご  
日高真吾 民博人類基礎理論研究所



GIジョー (1960年代)  
©2019 Hasbro. All Rights Reserved.

世界でも有数の玩具生産国だった日本は、終戦後、ゼロからの出発を余儀なくされた。逆境のなか玩具産業は、進駐軍がごみとして廃棄していた空き缶類に着目し、これらの材料を再生させてブリキのジープなどのおもちゃを作るようになった。

また、当時盛んに上映されたアメリカ映画の影響、リカ映画の影響を強く受け、日本社会では空前のアメリカブームとなり、G.I.ジョー関連のおもちゃやパービー人形などが人気を博した。加えて、英語そのものへの関心が高まるなか、英語を学べる玩具も生産された。



空き缶の廃材で作られた「ジープ」(1940年代)

「教育英字遊び」は、絵の丸い部分を切り抜くと丸メンコとなり、遊びながら英語を学べる玩具である。昭和二〇(一九四五)年二月五日という発行日がわかるものであり、発行年が明らかでないもののなかでは戦後もっとも早く発行されたものであるとされている。

## 玩具業界の復活

戦後の混乱期において、確実に玩具を生産できる環境が整うなか、輸出入玩具の生産も再開される。輸出用玩具は、オキユバイド・ジャパン(占領下の日本)の玩具として高い評価を受け、この流れのなかで戦後初の世界的なヒット商品となったフリクション玩具が昭和二三(一九四八)年に登場する。フリクション玩具とは、車輪の摩擦を原動力として、内蔵されたフライホイール(はずみ車)の慣性を利用することで、駆動する仕掛けとなっているおもちゃである。フリクション玩具は、明治時代に荒井源六によって原型が発明され、明治四四(一九一一年)には、この原理を応用した自動車や船のおもちゃが発売されていたが、戦後に改めて生産された多彩なフリクション玩具が大いに人気を

博したのである。このフリクション玩具を皮切りに、日本の玩具産業は再び輸出産業の花形として活気を取り戻していった。

着実に玩具業界が復活を遂げていくなか、プラスチックやビニールといった新しい素材、あるいは新しい技術を活かしたおもちゃが登場してくる。これらの新素材を活かしたおもちゃとしては、一大ブームを巻き起こした「フラフープ」が昭和二九(一九五四)年に生産され、さらに、昭和三五(一九六〇)年には「ダッコちゃん」が登場した。また、新しい技術の方では、レシーバーから発信される無線によって、子どもが自ら操縦できる「ラジコンバス」が昭和三〇(一九五五)年に発売された。

## 映像の時代へ

このように力強く復興を遂げていった玩具産業は、昭和二八(一九五三)年に本放送が開始されたテレビの登場、特に昭和三五(一九六〇)年のカラーテレビの放送開始、そして、当時活況を呈してい

た映画によって、大きな転換期を迎える。これらテレビや映画で登場するキャラクターをモデルとしたマスコミ玩具の人氣が一気に開花したのである。特に日本の漫画で最初にアニメ化された鉄腕アトムの人氣は、この流れを推進する原動力となった。このマスコミ玩具の隆盛は現在も続いており、子ども向けのテレビ番組とそのキャラクターをモデルとしたおもちゃを生産するメーカーとがおもちゃを共同開発するしくみは、玩具商戦の大きな柱と

なっている。また、日本のサブカルチャーとして世界的に注目されている漫画文化も、マスコミ玩具市場の重要な一翼を担っているといえよう。

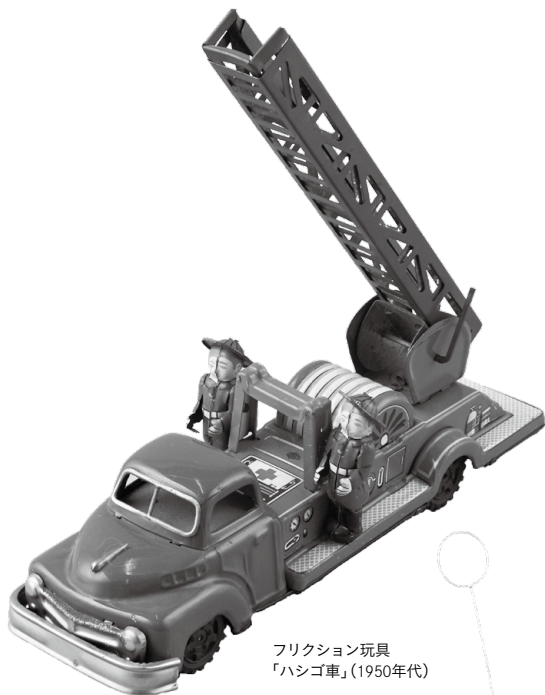
最後に日本の玩具市場の柱のひとつとして、世界からも注目を浴びているコンピューター玩具について紹介する。コンピューターゲームは、昭和五八(一九八三)年に任天堂から発売されたファミリコン(ファミリーコンピュータ)が爆発的にヒットし、子どもの玩具として欠かせないものへと発展した。さらに現代社会においては、子どもと大人が一緒に遊べる玩具として不動の人氣を誇り、日進月歩で進化するコンピューター技術や映像技術が駆使されたものが盛んに開発されている。

以上、終戦以降のおもちゃの動向について概観してきた。あらためて、このように俯瞰すると、

子どもとおもちゃの密接な関係が見えてくると同時に、おもちゃはその時代の社会動向に敏感に反応しながら開発されてきたことに気づく。おもちゃをとおして時代の世相を考える本特別展では、そのような視点からの楽しみ方も提供できるのではないかと考える。



「教育英字遊び」(昭和20年発行)



フリクション玩具  
「ハシゴ車」(1950年代)

ラジコン「RADICON BUS」  
(昭和30年発売)



# 庶民の足、ダラダラ

鈴木 英明

民博 グローバル現象研究部

だらだらとザンジバルで  
ダラダラに乗ってきました

子守役がまわってきた記念に(二〇〇五年)



交通手段をめぐる文化は国によってさまざま。時間どおりに出発し到着する、そんな日本では当たり前の感覚が、海外ではそうではないこともある。本号ではタンザニアのザンジバル島での乗り物事情を紹介する。



乗降口にしがみつきながら客を探すコンダクタ (2009年)

アフリカ大陸東部沖に浮かぶザンジバル島。アラブのようでもインドのようでも、アフリカのようでもあるが、そのどれも混交した文化が息づく旧市街地ストーンタウン、あるいは真っ白なビーチとエメラルドグリーンに輝く海でも知られるこの島は世界的にも人気の観光地だ。多くの観光客は旅行会社が用意したミニバスやタクシーを利用して遠出するが、島の人の足は基本的にダラダラである。ダラダラとは乗合バスのごとで、バスとはいっても基本的にはワゴン車で、最近では数が減ったが、一〇年くらい前ならば、ピックアップトラックの荷台に木製のベンチを付けて幌を張っただけのものが多かった。いずれも日本の中古車が活躍している。ダラダラはザンジバルに特有のものではなく、ダルエスサラームなどタンザニアの都市でもおなじみの庶民の足である。ケニアに行けばマタトウと名を変え、やはり同じように都市部での日常的な風景に溶け込んでいる。

## ダラダラでだらだら

ダラダラはだらだらと走る。だらだら走るからダラダラではないが、ダラダラはだらだら走る。なんでだらだら走るかといえば、ダラダラは決まったルートを走るが、基本的に乗客はどこで降りしても良いからである。バス停らしきものはあるが、それを示すものは大抵ない。加

の親や知り合いである必要はなく、近くにいる誰かである。多分、子どもたちはいちばん座り心地の良さそうな誰かをちゃんと見極めている。たまにその誰かに僕が選ばれるときがあるのだが、そんなときはなんだか嬉しくなる。

## ダラダラでわいわい

ダラダラに乗ってくる人たちは大体、あいさつをして乗ってくる。「アツサラーマ・アライ・クム」とくれば乗客たちもそれを返すし、老人が乗ってくれば敬意を込めたあいさつ「シカモ」と若者がボソツとます言つ。老人は耳が聞こえている限りは「マルハバ」と返す。そこから会話は始まる。やたらと着飾った親子には隣のおばちゃんはどうしたのかと聞き、若者がうまそうなマンゴーを抱えていれば、隣のおじさんがどこで買ったのかとそつと尋ねる。僕にも、お前はどこから来た、いくつだ、結婚しているのか、スワヒリ語はどこで教わった、カラテを教えろと質問や要望が浴びせられる。車内総揚げで大騒ぎになることはないが、スマホ



ダラダラは均一料金。大きな荷物は荷台へ (2009年)

特にストーンタウン付近は近距離客の熾烈な奪い合いが繰り広げられる。他方、コンダクタとよばれる集客・集金係はシャッカシャッカと独自のリズムで手のひらのコインの音を立てて集金をしながら、客を探す視線は常に鋭く道端に向けられる。いつかのときは、コンダクタがダラダラを止めたが、一向に客があらわれない。どうなってんだと思った矢先に大きなおばちゃんがひーふーいって乗ってきたことがあった。どうやら彼は車道に直交する小道の向こうにおばちゃんを発見したようだった。

## ダラダラでぎゅうぎゅう

ダラダラに定員はない。客は乗せられるだけ乗せるのが基本だ。二人がけの座席の定員は二人ではなく三人であり、四人座らせればなお良される。僕の運がいちばん悪かったときは、補助席が補助席であるために必要な座面のクッションが事もあろうにそこにはなく、ほぼ空椅子状態に乗ったときだった。座席に余裕があるときは子どもも席に座れるが、混んでくると子どもは誰かの膝の上に移動する。その誰かはその子

★  
タンザニア、  
ザンジバル島



友人(右)の所有していたダラダラ。フロントガラスの上にはルートがしるされている (2005年)

特別展  
「子ども／おもちゃの博覧会」

明治時代以降における日本の社会の大きな変化は、その時々の子どものありようや人びとの子ども観に影響を与えました。本展では、江戸時代から戦後のさまざまな玩具をつづいて、子どもや子どもをめぐる社会の変遷とその意味を探ります。

会期 3月21日(木)・祝〜5月28日(火)  
会場 特別展示室



福わらい

企画展  
「旅する楽器——南アジアの弦の響き」  
南アジアの弦楽器は、中央アジアや西アジアから伝えられた楽器が改良され定着したものが多く、そのいくつかは南アジアでの変容を経て東南アジア、東アジアにも伝えられました。楽器が広大な地域を旅して伝播していく様を知ることで、ユーラシアにおける長期的な文化交流を実感してください。



タゴール家に伝えられた  
1907年製のシタール

■関連イベント  
「ギャラリー公演」ミニコンサート  
南アジアの弦楽器の演奏をお楽しみください。

時間 13時30分〜14時15分、  
15時15分〜16時(各日2回公演)  
会場 本館企画展示場出口  
※申込不要(先着順)・要展示観覧券  
※公演中は、企画展示場内の映像・音響を停止します。  
3月9日(土)  
演奏 的場裕子  
楽器 ヴィナー  
3月17日(日)  
演奏 伊藤香里、勝田信明  
楽器 サラランギー、マードル  
3月30日(土)  
演奏 小日向英俊、藤澤ばやん  
楽器 シタール、タブラー

ワークショップ  
「かさつてボン〜オセアニアのかざり」  
世界には貝がらやイノシシの牙をつかったかざりや仮面があります。このワークショップでは、オセアニアの人びとがつくったかざりを観察したり、くらしについて学んだあと、布バッグに貝がらやイノシシの牙のスタンブでかざりつけをします。

日時 4月6日(土)11時〜11時45分、  
13時〜13時45分、14時30分〜15時15分  
(各回45分)  
会場 本館ナビひろば、オセアニア展示場  
※当日受付、各回先着15名、参加費500円  
(別途要展示観覧券)  
※未就学児は保護者同伴でご参加ください。

公開講演会  
「アンデス文明の起源を求めて」  
日本人研究者が約60年にわたって続けたアンデス文明研究の意味と意義を紹介するとともに、関心や対象を広げつつある次世代の研究動向を取り上げ、今後進むべき研究の方向性、そして遺跡が存在する地域の人びととの協働の可能性などを考えます。

日時 3月22日(金)18時30分〜20時45分  
(17時30分開場)  
講演会場 オーバルホール(定員480名)  
(大阪市北区梅田3-4-5)  
東京サテライト会場(ライブ配信)  
聖心女子大学4号館/聖心グ  
ローバルプラザ3階フリット記  
念ホール  
(東京都渋谷区広尾4-2-24)  
講演 関雄二(本館教授)  
坂井正人(山形大学教授)  
司会 上羽陽子(本館准教授)  
パネルディスカッション  
コメンテーター 中村誠(金沢大学教授)

進行 卯田宗平(本館准教授)  
主催 国立民族学博物館、毎日新聞社  
協力 山形大学、金沢大学人間社会科学研究  
附属国際文化資源学研究所、センター、  
アンデス考古学調査60周年記念事業  
実行委員会、聖心女子大学  
※要事前申込(講演会場のみ)、参加無料、  
先着順、手話通訳あり  
お問い合わせ先  
研究協力課 研究協力係  
06・6878・8209

みんなく春の遠足・校外学習事前見学&  
ガイダンス  
春の遠足・校外学習にむけて、事前見学に  
来館される学校団体の先生方を対象とした  
ガイダンスを開催します。  
日時 4月4日(木)、5日(金)  
14時〜16時30分(13時50分受付開始)  
会場 本館第5セミナー室  
※参加無料  
ホームページから参加申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAXにてお  
送りください。  
お申し込み・お問い合わせ先  
国立民族学博物館 案内所  
電話 06・6878・8341(10時〜17時)  
Fax 06・6878・8441

本館展示場一部閉鎖のお知らせ  
改修作業に伴い、オセアニア展示場の一部  
を左記の期間閉鎖いたします。ご迷惑をお  
かけいたしますが、何卒ご理解のほどお願  
い申し上げます。閉鎖箇所の詳細につきま  
しては、みんなくホームページをご覧ください。  
閉鎖期間 3月26日(火)まで

みんなくゼミナール

日時 3月16日(土)13時30分〜15時(13時開場)  
会場 本館セミナー室  
参加費 無料  
※参加券を当日12時30分から本館1階案内所前にて  
配布  
※メイン会場が満席の場合は中継会場をご案内いたし  
ます。  
第489回  
チャルメラ——過去から響く音  
講師 寺田吉孝(本館教授)



ブルガリアのズルナ(チャルメラ)奏者

みんなくウィークエンド・サロン  
研究者と話をしよう

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」調査し  
ている地域(国)の最新情報「みんなく」の展示資料  
について分かりやすくお話しします。

3月3日(日)14時30分〜15時 本館ナビひろば  
現代イスラームと預言者ムハンマド  
話者 相島葉月(本館准教授)  
3月24日(日)14時30分〜15時 本館ナビひろば  
民族学博物館における  
カルチャル・センシティブティへの配慮  
話者 伊藤敦規(本館准教授)

3月31日(日)14時30分〜15時 特別展示室  
特別展「子ども／おもちゃの博覧会」を巡って  
話者 笹原亮二(本館教授)  
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

●みんなく無料シャトルバスのご案内  
大阪モノレール「万博記念公園駅」とみんなくの間の直  
通送迎バスを特別展「子ども／おもちゃの博覧会」の会  
期中に運行します。

運行日 3月21日(木)・祝〜5月28日(火)の土曜・日曜・  
祝日  
1日11往復、所要時間10分、無料  
運休日 平日、4月27日(土)〜5月1日(水・祝)  
※万博記念公園でイベントが開催される場合は臨時に  
運休することがあります。詳細は本館ホームページ  
をご覧ください。

大阪モノレール 万博記念公園駅発		国立民族学博物館発	
時	万博記念公園駅 →国立民族学博物館	時	国立民族学博物館 →万博記念公園駅
10	06 36	10	50
11	06 36	11	20
12	46	12	30
13	16 46	13	00 30
14	26 56	14	10 40
15	26 56	15	10 40
16		16	30
17		17	00

●無料観覧日のお知らせ  
3月10日(日)は、本館展示と企画展を無料で観覧いた  
だけます。  
※各イベントについてくわしくはみんなくホームページを  
ご覧ください。  
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時〜17時(土日祝  
を除く)です。

友の会

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)  
※会員無料(会員証提示)、一般500円  
3月の友の会講演会は第2土曜日に開催します。

第486回 3月9日(土)13時30分〜14時40分  
キリスト教で読み解く韓国の歴史と文化  
講師 太田心平(本館准教授)

日本に仏教を伝えた地域として知られる朝鮮半島。儒教  
の国としても知られる韓国。しかし、統計をみると、宗  
教があるという人のうち過半数がキリスト教徒です。ど  
うしてこれほどキリスト教が普及したのでしょうか。そ  
れを紐解けば、日本とは大きく異なる韓国の近現代史と、  
あまり知られていない現在の姿がわかります。植民地か  
ら軍事独裁へ、民主化運動と格差社会。そして、エネルギ  
シユな若者たちの生き方まで、キリスト教を鍵に考えま  
す。  
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

第487回 4月6日(土)13時30分〜14時40分  
企画展「旅する楽器——南アジアの弦の響き」関連  
「イラン音楽の楽しみ」  
——伝統打弦楽器サントゥールを例に  
講師 谷正人(神戸大学大学院准教授)

近年、外国からの観光客誘致に力を入れているイラン。  
日本からの旅行者も増える傾向にある一方で、イランの  
音楽について知る機会はいまだ少ないように思います。  
いわゆる「民族音楽」というと、ともしれば珍しい楽器の  
響きだけに心を奪われてしまいがちですが、本講演では  
「微分音」「無拍」「旋律進行」という3つのキーワードに着  
目し、「伝統楽器サントゥールの演奏を交えながら、イラン  
音楽の魅力を紹介いたします」。  
※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます。時間  
内に展示の見学も予定しています(40分)。懇談会のご参加に  
は会員証もしくは展示観覧券が必要です。

第81回体験セミナー  
琵琶湖と生きる——刺し網漁とモンドリ漁体験  
日程 5月11日(土)〜12日(日)【申込締切:4月10日(水)】  
第93回民族学研修の旅  
インドネシア東部・ヌサトゥンガラ諸島の住まいを訪ねる  
日程 6月7日(金)〜18日(火)【申込締切:4月26日(金)】





## 想像界の生物相

# ティンガティンガの妖怪

和田 正平 わだ しょうへい  
民博 名誉教授



資料名 | 絵画 (ティンガティンガ)  
「ワニと妖怪」

標本番号 | H0170739

制作 | ハッサニ、1989年

地域 | タンザニア

サイズ | 縦 67cm × 横 67cm



資料名 | 絵画 (ティンガティンガ)  
「鬼蛇姿の妖怪」

標本番号 | H0170790

制作 | ムクーラ、1989年

地域 | タンザニア

サイズ | 縦 67cm × 横 68cm

タンザニアのポップアート「ティンガティンガ」は、近年、日本でも目にする  
ことが多くなった。思い起こすと、一九六〇年代、タンザニア南部マクア人から突  
如広がったポップアートが、日本でも一般  
に知られるようになったのは、白石頭二、  
山本富美子の絵画本『ティンガティンガ』  
(講談社、一九九〇年) からで、動物、鳥、  
生活、マジシャンのジャンル別に二四六点  
が紹介された。その後、中心作家であっ  
たジャフアリー・アウシ等を「色彩の魔術  
師」として大きく取り上げた『ティンガ  
ティンガII』(講談社、一九九二年) が八八  
点のアートを紹介し、彼らは日本でも人  
気作家になった。同じころ、民博でも、ティ  
ンガティンガ二〇三点を収集した。

ポップアートとは、一九六〇年代に、ア  
メリカから広がった大衆文化をテーマとし  
た芸術を指すことばである。アメリカの芸  
術運動としてのポップアートにおいて、ア  
ンディ・ウォーホルなどの個人の作家がブ  
ランド化されたのに対して、ティンガティ  
ンガは誰もが助け合って作品を描いてい  
て、作家個人名にはあまりこだわらない。つ  
まりティンガティンガの場合は、大衆芸術  
という意味で、ポップアートとよばれる。

### ◆◆◆ミステリアスな世界◆◆◆

民博でも、開館二〇周年(一九九七)九

八年)に合わせて、アフリカのポップア  
ー「サバンナの現代絵画 ティンガティ  
ンガの不思議な世界」を講堂ホワイエで展  
示した(七三三三)。観覧者の人気が集ま  
つたのは動物画のジャンルで、象、ライオン、  
シマウマ、鳥(フランギンゴ)をモチーフと  
して描いたもので、創始者のエドゥワジ・  
ティンガティンガ(一九三二〜七二年)の伝  
統に沿った作品であった。

しかしタンザニアでは、スワヒリ語で  
「シエタニ」という精霊や化け物が出現す  
る昔話の世界を描く作品も確実に増えて  
いった。その発端となったのがタンザニア  
を代表する芸術家、ジョージ・リランガ(一  
九三四〜二〇〇五年)の絵画である。彼は  
民話に基づいた「シエタニ」に想像力をふ  
くらませ、まるで人間みたいに生活してい  
ながら、人間にはありえないさまざまな  
ミステリアスな姿を描いたのである。ティ  
ンガティンガ派からも、その発想をみな  
らって「シエタニ」を描くものが出てきた  
のである。右に掲げた「ワニと妖怪」と  
名付けたアートは、ワニといっても、尻尾  
に子どもの妖怪の頭がついている。妖怪は  
男で、頭から左右に角のびていて、その  
先にも顔があり、また背中には羽根がつ  
いている。どうしてこんな発想が出てくる  
のだろうか。

もう一枚は、妖怪が出現したので、三

人の女性が逃げようとするが、そのうち  
二人はそれぞれ首をつかまれている。妖  
怪の頭には角があり、口を大きく開いて  
舌なめずりをしている。それだけではな  
い。開いた股間から陰茎が蛇となつて立  
ち上がっている。どこかユーモラスな化け  
物である。これは、日本でいえば、動物  
たちの遊びを擬人化し、滑稽に描く「鳥  
獣人物戯画」に一脉通ずるものがある。  
現代では水木しげるのマンガ『ゲゲゲの  
鬼太郎』の世界のアフリカ版ともいえそ  
うだ。

### ◆◆◆大衆芸術に生きる妖怪◆◆◆

ただ、タンザニアは貧しい国で、基本  
的には安い六色のエナメルペイントと天井  
用のボード(裏面に布)を利用して作品を  
制作していた。観光客相手に路上で売る  
ことから始まったので、現在でも、巧拙を  
無視して、ティンガティンガ派の絵を描い  
て生計を立てる人が後を絶たない。

ゆえに、ティンガティンガ工房に弟子入  
りする若者が多い。日本からも一年間、  
身をもってこの画法を学ぶために渡航し、  
帰国後、関西を中心にティンガティンガ  
アーティストとして活躍する人も出てき  
た。今までは、動物植物ものが主だったが、  
いつか妖怪画にも手をのばすかもしれな  
い。

# 新世紀ミュージアム

「一目立つ前衛的な外観を呈した『明日の博物館』は、今やリオデジャネイロの新しい名所のひとつとなった。最新の映像技術を駆使した展示には、来館者を飽きさせない工夫が随所にこらされている。そこで提示されるわたしたちの『明日』の姿とは。



「明日の博物館」正面入り口 (写真はすべて2018年撮影)

カラトラバの設計である。二〇一五年二月に開館し、翌年開催されたリオ五輪では、博物館周囲の回廊がマラソンコースの一部として利用された。この博物館のいちばんの特徴は、モノよりもアイデアを展示していることである。博物館の名称である『明日』とは地球の未来のこと、来館者は地球環境問題について学び、そのために何をすべきか考えるように促される。

## 展示の構成

わたしは二〇一八年一〇月二日、ブラジルのアパレシダの聖母の祝日に訪問した。博物館前の広場には入場券を買い求める家族連れや観光客の長い列ができていた。なかに入ると、正面に球形のスクリーンがあり、地球の気候帯、海流の動



博物館内部の地球スクリーン

き、かつての大陸移動の経路等が投影されていた。常設展示場は、「宇宙」「地球」「人新世」『明日』の五つのセクションからなる。はじめに宇宙と地球の成り立ちが示された後、展示の中心をなすのは「人新世」セクションだ。人新世とはオランダ人化学者パウル・クルツツェンが提唱した概念で、二〇世紀半ば以降、人間の活動によって地球環境が激変し、あらたな地質時代がはじまったとする考え方に基づく。展示場では、マルチスクリーンで現代の人間活動とその環境への影響がわかりやすく描かれていた。続く『明日』のセクションでは、わたしたち自身が地球環境にどれほどの負荷をかけているかを学ぶことができた。情報端末の前で、一週間に肉や魚を食べる回数、自家用車を運転する頻度、エンジンの排気量

等のデータを入れていくと、その生活を全人類がおこなう場合に、地球が何個必要かという答えが返ってくる。いわゆるエコロジカル・フットプリント（一人一人当たりの自然環境への依存度を面積で示した指標）の数値が簡易的なプログラムで算出されるのだ。わたしもやってみたが、地球二・七個分という数字に驚愕した。

## 人類の文化

「明日の博物館」には、少なくともふたつの点で民族学の発想が認められる。第一に、『地球』セクションのなかの『思考』コーナーである。ここでは地球の生物多様性ととも、人間の普遍性と文化的多様性を見つめようというねらいから、人間生活にかかわる基本的な概念がとり上げられている。例



「思考」コーナーのアイデンティティに関するパネル

えばアイデンティティという項目では、特定の集団や文化に所属することはあらゆる人間に共通であるという説明がなされる。同時に、赤い服を着たイギリスのバッキンガム宮殿の衛兵たち、水色の手術着を着たリオデジャネイロの外科医たち、そして濃紺のスーツを着た若者たちが整列する日本企業の入社式等の写真が並び、アイデンティティの単位やそれを表出する手段が多様であることが示される。第二は、展示場最後の『我々』セクションにある木製ドームの中央に立つチュルンガとよばれる柱である。これは、オーストラリア中央部の先住民たちが先祖から受け継いだ儀礼用の祭具だが、ここでは世代間の知識の継承、および人類とその文化の連続性のシンボルとして置かれている。来館者はこの柱を見ながら、博物館の展示を振り返り、一人一人がどのように地球の未来を切り開いていくかを考えることになる。

## 民族学展示の可能性

思い起こせば、リオデジャネイロは一九九二年に第二回国連地球サミットが開催された場所である。経済成長による物質的な繁栄という近代的な価値が再考され、



人造湖越しに海を臨む博物館の先端部

環境とのバランスを考慮した持続可能な開発の実現方法が議論されたのだった。いわば人類史の転換点となった会議が開かれた都市に、この博物館は建つべくして建っているといえよう。

そうした博物館のなかに民族的な展示があることに、違和感を覚える人もいるかもしれない。しかしこれは、地球環境の保全のためには、科学的な知識だけでなく、人類の文化的多様性を踏まえて諸民族の叡智を結集することが大切であるというメッセージなのだ。わたしには思われた。その意味では、『明日の博物館』は民族学の重要性を今日の文脈のなかで再評価した博物館ということが可能だろう。



歌を発見し、収集した音楽学者

福岡 正太  
民博 人類基礎理論研究部

アパラチアの山で

この映画は、二〇世紀のはじめ、アメリカのアパラチア山脈に暮らす人びとの歌を調査した音楽学者を描いたフィクションである。主人公のリリー・ペンレリックは、イギリスの物語歌バラッドを愛している。アメリカの大学で准教授を務めるが、十分な業績を残しているにもかかわらず教授への昇進を拒否される。不当な扱いに腹をたてた彼女は大学を後にし、妹が教師を務めるアパラチアの山へと向かう。彼女はそこで、イギリスのバラッドと共通するレパトリーが歌われているのを目の当たりにし、数々の困難にあいながらも、人びとの歌を採譜し録音する仕事に邁進する。しかし、妹が同僚の女性教師と恋愛関係にあることがばれ、学校に火をつけられ、楽譜や録音されたシリンドラーは灰と化してしまふ。そして、彼女は山で愛し合うようになったトムと身寄りのない少女デイレイディスとともに山を下り、彼らの歌をレコーディングしてもっとたくさんの人びとに聴いてもらうことを決意する。

「バーバラ・アレン」

この映画には、よく知られたバラッド「バーバラ・アレン」の三つの異なるバージョンが流れる。この歌は、イングランド、スコットランド、アイルランド、そして北アメ

きて欲しいなどと情けなく言うが、リリーはまったく意に介さず、録音機材の援助を頼みこんだ。リリーは、デイレイディスにたくさん歌を繰り返し歌わせて楽譜にとり、やがて録音機材が届くと、山を歩き回り多くの歌を集め始めるのだった。

三つめの「バーバラ・アレン」は、現在、アメリカのカントリー・ミュージックの世界で活躍するエミルー・ハリスがエンドロールで歌うバージョンである。これは数々の映画の音楽を手がけた音楽家で、グリーンウォルド監督の夫だったデイヴィッド・マンズフィールドの編曲によるもので、アコースティック楽器に加えて電気楽器も駆使したバンドの伴奏で歌われている。まさに山を下りたバラッドの現在における展開を体現していると言っていいたいだろう。リリーが楽譜から研究対象として興味をもったバラッドが、山の人びとの生活のなかに生きてくれている様を体験し、それを同時代の世界に広めていくために山を下りるとい

リカなど、広い地域で歌われてきた。多くのバリエーションがあるが、だいたい次のような内容の物語が歌われる。バーバラ・アレンに恋した若い男が、死を目の前にして彼女を呼び寄せる。彼は死に、悲しみのため彼女も後を追うように世を去る。二人は同じ教会に葬られ、彼の墓からはバラ、彼女の墓からはイバラが伸びて結び合う。

映画の冒頭では、リリーが大学の講義でピアノを弾きながらこの曲を歌う。使っている楽譜は、イギリスで採集された歌にピアノ伴奏をつけたものだろう。彼女は学生たちに、歌にあらわれた人びとの素朴で純粋な「心情」を味わうよう教える。しかし、この時点の彼女にとってのバラッドは、楽譜の上にするされたものだった。それを歌った人びとは、彼女にとっては想像上の存在でしかなかった。

二つめのバージョンは、妹たちが運営する山の学校を手伝うデイレイディスが歌ったものである。デイレイディスは、自分は祖母から、祖母はその母親から歌を学んだと説明する。いずれもイギリスに行ったことはおろか、山からも出たことがないような人たちだった。リリーは彼女たちの祖先がイギリスから移民して以来、これらのバラッドを伝え続けてきたことに気づく。彼女はその発見に興奮して大学の同僚で元愛人の男性に電話をかける。同僚はおろおろして、家に電話をかけるなどか、帰って

う映画の展開をこの三つのバージョンが象徴している。

バラッドにあらわれた「心情」

この作品で印象的だった場面がある。山の出身でありながら大学で学び、石炭を採掘する会社に就職したアーノ。彼は、山の人びとの土地を安く買いたたく仕事をまかされている。バラッドを集めるリリーに遭遇し、バツハの音楽の方がすばらしいと言って彼女たちをバカにする。しかし、祭りの場に酔っぱらってあらわれ、トムたちと殴り合いをした彼は、バラッドを一節歌って去っていく。彼の歌を引き取って、周りの者たちもさらにバラッドを歌う。その歌は、山での生活の先行きを覆う暗い影を感じている彼らの複雑な「心情」をあらわしているかのようだった。

山のバラッドがややロマンティックに描かれている感はあるが、バラッドをたっぷり楽しむことのできる映画である。



ネイティブ・アメリカンであるブラックフットのリーダー、マウンテン・チーフと録音に聴き入る人類学者フランシス・デンスモア(1916年)。映画のなかでリリーが使用していた機械と同様の、エジソンが発明した円筒状のロウ管を用いる録音再生機が見える。20世紀に入り、録音機は音楽や言語の研究を大きく進展させた  
(Library of Congress, Prints & Photographs Division, [LC-DIG-npcc-20061])



20世紀後半に入ると、ポータブルの録音機が普及し、音楽調査に欠かせないものとなった。奥はスイスのメーカー、ナグラのオープンリールテープ録音機IV-S、手前はソニーのカセットテープ録音機TC-D5(通称でんすけ)。いずれも民族音楽学者には忘れることのできない名機である(2019年)



民博による徳之島の芸能撮影。ポータブルのビデオ録画機が普及した1980年ころから、民族音楽学者一人での調査においても、踊りや儀礼のなかの音楽を映像で記録することが多くなっていった。現在は録音に代わってビデオ録画が音楽芸能の研究に欠かせなくなっている(2011年)

「歌追い人」

原題：Songcatcher

2000年/アメリカ/英語/109分/DVDあり

監督：マギー・グリーンウォルド

出演：ジャネット・マクティア、エイデン・クイン、エミー・ロッサム、  
パット・キャロルほか

## ベンガルのラスグッラー



## What's in a name?

たなか てつ や 南アジア地域研究国立民族学博物館拠点  
田中 鉄也 拠点研究員

ラスグッラーには個人的な思い入れがある。二〇〇九年、はじめてインドの友人から結婚式に招かれ、二週間ほどラージャスターン州北部の新郎の家に泊まり込んだ。そこでよく食べたのがラスグッラーだ。シロップに漬けられた団子のようで、食感はスポンジのように柔らかい。その奇妙な食感と強烈な甘さに惹かれた。友人はそれをラージャスターンの特産というので素直に信じていたのだが、二〇一七年にそれが覆されるニュースを耳にした。

二〇一七年二月一日、西ベンガル州政府がラスグッラーの地理的表示を得た。正確には「ベンガルのラスグッラー（バングル・ロシヨゴッラ）」にだ。地理的表示とはインドで二〇〇三年から施行された制度である。（農産物・自然物・手工芸品を含む）商品の品質や社会的評価などがその生産地に主として帰せられる場合、当該品の名前が知的財産として保護される（例えば日本では神戸ビーフが該当する）。

地理的表示はその商品の起源を規定する。ベンガルのラスグッラーは一八六八年カルカタ（現コルカタ）の菓子職人ノビン・チョンドロ・ダシュが考案したという彼の息子が設立したスロップ有限会社はシロップ入り「ロシヨゴッラ」を缶詰にして売り出し、インド全土で流通が可能となった。この会社が保持するオリジナリティが歴史的根拠となり、地理的表示は認証された。

また地理的表示はその商品の製造方法や原材料も厳密に規定する。ベンガルのラスグッラーの原材料はチャ

ナ（カッテージチーズ）のみで、つなぎとしてセモリナ粉などと混ぜてはいけない。形状は直径三・七×六・二センチメートルの球体。色は白色。シロップの糖度は三〇〜四〇パーセントまで。食感は柔らかく舌触りがなめらか等々。単に、ベンガル地方で製造されるからといって、すべてのラスグッラーにその特質が認められるわけではないのだ。

ラスグッラー発祥の地がコルカタだと知ったわたしは、件の友人の大言を易々と信じた自分にあきれつつ、それと同時に「ベンガルのラスグッラー」と銘打った地理的表示にも少し違和感を覚えた。ラスグッラーはラージャスターンでも有名になるほどインド全土に普及した御菓子だ。しかし地理的表示は該当商品の特質が生産地と結びつけられるため、認証されるラスグッラーはどこが原産地なのかをきちんと規定しなければならぬ。この名のおかげで他地域のラスグッラーに対するベンガルの優位性が生じてしまったのだ。

さっそく西ベンガル州のお隣オディシャ州はこの決定に大きな不快感を表明した。同州政府はラスグッラーとはジャガンナート寺院の女神ラクシュミーに捧げられた供物を起源とし、そのレシビも六〇〇年以上の歴史があると反論した。そして「ジャガンナートのラスグッラー」を商工省に地理的表示として認証するよう申し込んだのだ。ラージャスターンまで届いたラスグッラーの名声は、政府が名付けに絡むことで無用な争いに巻き込まれているようだ。

編集後記

本号は特別展「子ども／おもちゃの博覧会」に連動した企画である。おもちゃから世相を見るというのが展示の趣旨のひとつと理解しているが、個人的に興味深く拝見したのは武士から軍までのミリタリー関係のものを玩具化した商品の数々である。メンコなどに描かれている顔は、当時の子どもには周知の人物が、モデルとなっているのだろうか。あるいはイメージ画なのだろうか。いずれによせ、みなさんおしなべて立派な髭を生やしているのも面白い。軍人がいま子どものおもちゃとなることはまずないだろう。が、髭の方はどうなのだろうか。当方の負しい知識では、黒ひげ危機一髪くらいしか思いつけなかった。軍人や髭から連想される男らしさというものは、現代ではあわれな海賊のようなかたちでしかありえないのかもしれない。そういえば本館は一般企業に比べれば髭率が高い気がするが、理由は何だろうか。ちなみに小生に髭があるのは毎朝剃るのが面倒だからである。(丹羽典生)

- 表紙：本館所蔵の玩具資料。右上から時計回りに
- 1、ハシゴ車（昭和、戦後）
  - 2、角メンコ「エムビー」（昭和、戦後）
  - 3、G1ジョー（昭和、戦後） ©2019 Hasbro. All Rights Reserved.
  - 4、軍人丸メンコ（明治）
  - 5、西洋着せ替（明治）
  - 6、防毒マスク（おもちゃ）（昭和前期）

次号の予告

特集

「みんなぱくの収蔵庫」（仮）

みんなぱくをもっと楽しみたい方のために  
国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんなぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。毎月『月刊みんなぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんなぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんなぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんなぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



月刊みんなぱく 2019年3月号

第43巻第3号通巻第498号 2019年3月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子  
編集委員 丹羽典生（編集長） 寺村裕史 三島禎子  
南真木人 山中由里子 吉岡乾

デザイン 宮谷一孝 長岡綾子  
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団  
印刷 毎日新聞社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通ください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

みんなぱくフェイスブック  
みんなぱくツイッター  
みんなぱくインスタグラム  
みんなぱくYouTube

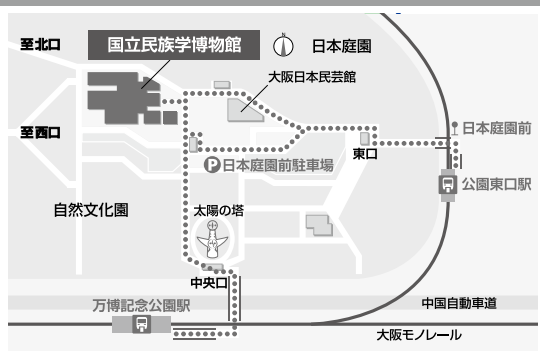
<http://www.minpaku.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/MINPAKUofficial>

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>



ベンガルのラスグッラー

What's in a name?

ラスグッラーには個人的な思い入れがある。二〇〇九年、はじめてインドの友人から結婚式に招かれ、二週間ほどラージャスターン州北部の新郎の家に泊まり込んだ。そこでよく食べたのがラスグッラーだ。シロップに漬けられた団子のようで、食感はスポンジのように柔らかい。その奇妙な食感と強烈な甘さに惹かれた。友人はそれをラージャスターンの特産というので素直に信じていたのだが、二〇一七年にそれが覆されるニュースを耳にした。

二〇一七年二月二十四日、西ベンガル州政府がラスグッラーの地理的表示を得た。正確には「ベンガルのラスグッラー（バングラール・ロシヨゴッラ）」にだ。地理的表示とはインドで二〇〇三年から施行された制度である。（農産物・自然物・手工芸品を含む）商品の品質や社会的評価などがその生産地に主として帰せられる場合、当該品の名前が知的財産として保護される（例えば日本では神戸ビーフが該当する）。

地理的表示はその商品の起源を規定する。ベンガルのラスグッラーは一八六八年カルカタ（現コルカタ）の菓子職人ノビン・チョンドロ・ダシュが考案したという。彼の息子が設立したS.O.S.有限会社はシロップ入り「ロシヨゴッラ」を缶詰にして売り出し、インド全土で流通が可能となった。この会社が保持するオリジナルレシピが歴史的根拠となり、地理的表示は認証された。

また地理的表示はその商品の製造方法や原材料も厳密に規定する。ベンガルのラスグッラーの原材料はチャ

ナ（カッテージチーズ）のみで、つなぎとしてセモリナ粉など混ぜてはいけない。形状は直径三・七×六・二センチメートルの球体。色は白色。シロップの糖度は三〇〜四〇パーセントまで。食感は柔らかく舌触りがなめらか等々。単に、ベンガル地方で製造されるからといって、すべてのラスグッラーにその特質が認められるわけではないのだ。

ラスグッラー発祥の地がコルカタだと知ったわたしは、件の友人の大言を易々と信じた自分にあきれつつ、それと同時に「ベンガルのラスグッラー」と銘打った地理的表示にも少し違和感を覚えた。ラスグッラーはラージャスターンでも有名になるほどインド全土に普及した御菓子だ。しかし地理的表示は該当商品の特質が生産地と結びつけられるため、認証されるラスグッラーはどこが原産地なのかをきちんと規定しなければならぬ。この名のおかげで他地域のラスグッラーに対するベンガルの優位性が生じてしまったのだ。

さっそく西ベンガル州のお隣オデイシャ州はこの決定に大きな不快感を表明した。同州政府はラスグッラーとはジャガンナート寺院の女神ラクシュミーに捧げられた供物を起源とし、そのレシピも六〇〇年以上の歴史があると反論した。そして「ジャガンナートのラスグッラー」を商工省に地理的表示として認証するよう申し込んだのだ。ラージャスターンまで届いたラスグッラーの名前は、政府が名付けに絡むことで無用な争いに巻き込まれているようだ。

## 編集後記

本号は特別展「子ども／おもちゃの博覧会」に連動した企画である。おもちゃから世相を見ろというのが展示の趣旨のひとつと理解しているが、個人的に興味深く拝見したのは武士から軍までのミリタリー関係のものを玩具化した商品の数々である。メンコなどに描かれている顔は、当時の子どもには周知の人物が、モデルとなっているのだろうか。あるいはイメージ画なのだろうか。いずれによせ、みなさんおしなべて立派な髭を生やしているのも面白い。軍人がいま子どものおもちゃとなることはまずないだろう。が、髭の方はどうなのだろうか。当方の貧しい知識では、黒ひげ危機一髪くらいしか思いつけなかった。軍人や髭から連想される男らしさというものは、現代ではあわれな海賊のようなかたちでしかありえないのかもしれない。そういえば本館は一般企業に比べれば髭率が高い気がするが、理由は何だろうか。ちなみに小生に髭があるのは毎朝剃るのが面倒だからである。(丹羽典生)

- 表紙：本館所蔵の玩具資料。右上から時計回りに
- 1、ハシゴ車（昭和、戦後）
  - 2、角メンコ「エムビー」（昭和、戦後）
  - 3、G1ジョー（昭和、戦後） ©2019 Hasbro. All Rights Reserved.
  - 4、軍人丸メンコ（明治）
  - 5、西洋着せ替（明治）
  - 6、防毒マスク（おもちゃ）（昭和前期）

## 次号の予告

特集

## 「みんなぱくの収蔵庫」（仮）

## みんなぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんなぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんなぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

### 維持会員・正会員

『月刊みんなぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

### ミュージアム会員

『月刊みんなぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんなぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



## 月刊みんなぱく 2019年3月号

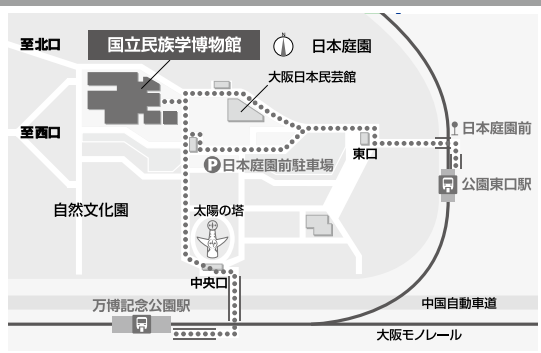
第43巻第3号通巻第498号 2019年3月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子  
編集委員 丹羽典生（編集長） 寺村裕史 三島禎子  
南真木人 山中由里子 吉岡乾

デザイン 宮谷一 長岡綾子  
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団  
印刷 毎日新聞社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

みんなぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんなぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんなぱくYouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>



# みんなのほくぶつかん みんぱく

MINPAKU

2019年春、本館のコレクションが日本の東西で公開されます。

玩具コレクション 国立民族学博物館 特別展

## 子ども／おもちゃの博覧会

場所：国立民族学博物館

会期：3月21日（木・祝）～5月28日（火）

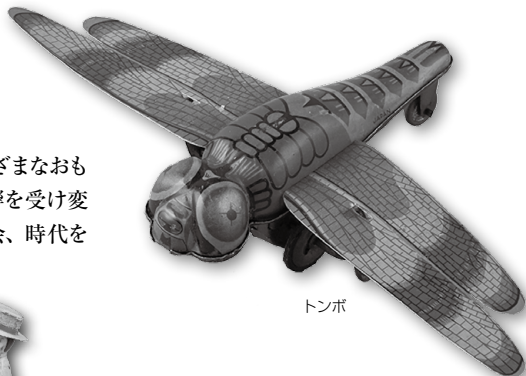
まもなく開幕の本館特別展では、江戸時代から戦後のさまざまなおもちゃを時代を追って紹介します。戦争、経済、教育などの影響を受け変遷していくおもちゃからは、そのときどきの子どもを取り巻く社会、時代をうかがい知ることができます。



丸メンコ  
(楠正行、楠正成)



自動車



トンボ

ミュージアム・ショップにて  
特別展図録を販売します

『子ども／おもちゃの博覧会』

編者：笹原亮二

発行：国立民族学博物館

全232頁、A4判、価格未定

ビーズ・コレクション 国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展

## ビーズ—自然をつなぐ、世界をつなぐ

場所：国立科学博物館 日本館 1階 企画展示場（東京・上野）

会期：4月9日（火）～6月16日（日）

好評を博した本館のビーズ・コレクションの展示が、共同企画展として東京で生まれ変わります。植物、動物、貝、石、金属、ガラスと、自然科学の視点から素材別にビーズをとらえ、さらに民族学の視点から人とのかかわり方を紹介します。文理融合の成果にご期待ください。



神像付きのイス（貝）



首飾り（動物の卵殻）



首飾り（植物）



首飾り（ヒトの歯）



仮面（ガラス）